

## ～ はまなご環境ネットワーク活動紹介 ～

### ■浜名湖エコキッズ体験塾2018in弁天島 ～アマモ場といかり瀬のいきもの観察～ 平成30年8月4日(土) 浜松市西区舞阪町ほか

浜名湖の貴重な自然と恵みに実際にふれながら、浜名湖の豊かな自然に感謝し、大切に守っていく意識を育むための体験型学習会を開催しました。

#### (1) アマモの回収作業体験(浜名湖アマモ活用プロジェクト)

弁天島海浜公園の海水浴場に打ち上げられたアマモやアオサを観察し、回収作業を行いました。混ざっているゴミを取り除きながら回収したアマモは村櫛の耕作放棄地に運び、秋になったらアマモを畑の中に入れて野菜を育てる浜名湖の農業体験に活用します。

参加者は、「海のゆりかご」と言われ、浜名湖にとって大切な役割を果たすアマモが“困りもの”となっている現状を学びました。



アマモの回収作業

#### (2) 浜名湖の湖上遊覧・漁場見学

地元漁師さんの船に乘せて弁天島海浜公園棧橋を出発。魚市場を見学し海と繋がっている「今切れ口」に向かい、普段は車で走っている浜名湖大橋を下から眺め、新居の町中を巡る水路を通り、カキ棚の観察、JRの鉄橋をくぐって弁天島に戻り、いかり瀬に上陸しました。

カキ棚の見学では船から身を乗り出して熱心に観察し、漁師さんからは、カキの成長の状況にあわせて、カキを吊るす場所を変えることなどを教えてもらいました。

浅瀬では多くの種類の野鳥を観察することもできました。



カキ棚の観察

#### (3) 浜名湖の干潟やアマモ場のいきもの・アサリ養殖の観察

弁天島遊船組合の間瀬組合長から、漁師さんが取り組んでいる網袋でアサリを保護する「アサリのゆりかご」(アサリの幼生のすみかとなる砂利を入れて浅瀬に並べてある)について説明してもらい、湖底にネットを張ってアサリを保護している場所では、ネットの下を掘ってアサリを観察しました。

アマモ場ではヨウジウオ・ハゼ・カワハギの赤ちゃん、大きなハマグリなど多くのいきものを観察し、アサリの天敵”ツメタガイ”も捕獲しました。



アサリの観察

■この学習会は須山建設株式会社(浜松市西区呉松町の「浜松・浜名湖太陽光発電所」)の協賛により実施しました。

■回収したアマモを堆肥に活用して野菜の栽培をしています。

10/14 大根の種まきと芽キャベツ等の苗の植え付けをしました。12月下旬～1月頃に収穫予定です。日程が決まりましたら、ブログ等で収穫体験の参加者を募集しますので、ぜひご参加ください。



### イベント情報募集!!

はまなご環境ネットワークのブログ等でイベントの開催情報の発信をします。情報発信を希望する団体は、はまなご環境ネットワーク事務局までご連絡ください。

【はまなご環境ネットワーク事務局】NPO法人地域づくりサポートネット

Email info@shizuoka-t.net 電話 053-458-3480 FAX 053-455-0328  
ブログ http://kankyo.hamazo.tv/ FaceBook こちらのQRコードを読んで下さい



浜名湖環境保全団体情報誌

## はまなご環境通信

発行/静岡県(はまなご環境ネットワーク)  
発行日/平成30年10月30日  
事務局/NPO法人地域づくりサポートネット  
浜松市中区常盤町133-13 TEL053-458-3480  
Eメール info@shizuoka-t.net

### 平成29年度浜名湖環境保全団体交流会報告

平成30年2月10日、浜松市西区の庄内協働センターにおいて「浜名湖環境保全団体交流会」が開催されました。

浜名湖や流域周辺の環境・暮らし・観光等に取り組む市民団体や企業が参加し、活動を発表し、団体相互の交流を深めました。

はまなご環境ネットワークの芥川会長からは、近年は浜名湖を取り巻く環境が変化してきていることや、環境に対する活動の難しさなどについて話がありました。

また、活動資金の調達方法や情報発信のお役立ち情報についての紹介もされました。



浜名湖の環境について語る芥川会長



お役立ち情報紹介



活動報告(昆虫食倶楽部)



展示

意見交換会では、「夢」や「課題」の共有というテーマで、今後の事業展開や活動の壁になっていること、悩みなどについて発表し、その意見に対するアイデアや情報の共有が行なわれました。

活動資金不足、メンバーの高齢化、情報発信の弱さなど、活動団体自身が抱える課題とともに、若者の加入で活気づいたことや他の団体との協働で新しい活動が生まれたことなどが発表されました。

その他にも、「いろいろな活動をしている団体がたくさんあることを知った」「浜名湖の環境や活動団体の情報がもっとほしい」「連携することで活動が広がったり、苦手なことをサポートしたりしてもらえそう」「浜名湖の良さをもっと知ってもらうことが必要(地元の人も知らないことが多い)」などの意見がでました。

展示コーナーでは、各団体の活動紹介パネルやチラシの他にも、浜名湖のアサリ漁の際に一緒に捕獲したサルボウガイやツメタガイ等のいきもの、外来種を駆除した亀の甲羅で作った楽器、アマモを堆肥にして育てた大根などが展示されました。

休憩時間は、「浜名湖の恵み」体験として、放置竹林整備で開発した竹粉入りおから寿司、浜名湖のりと切干大根のスープ、小魚の佃煮、アマモを活用して育てた大根の煮物などを堪能しながらの交流となりました。



グループワーク



グループワークの成果を共有

この交流会での「他の活動団体の情報をもっと知りたい」という要望により、浜名湖の環境に関する活動団体等の活動現場を取材し紹介します!



## 活動団体紹介1

## 湖西フロンティア倶楽部

湖西フロンティア倶楽部は、地域の活性化を目指して、青年団OBが主体となって平成4年4月に設立。地域の環境保護活動、青少年リーダーの育成、地域文化の継承や地域内の各種団体との連携による住みやすい地域づくりの活動に取り組んでいる団体です。

### おちばの里親水公園

湖西市大知波の「おちばの里親水公園」の管理、公園周辺の森の整備など、自然とのふれ合いを楽しみながら活動しています。豊かな自然に囲まれた公園では季節ごとのイベントや木の実を使った工作や自然を生かした森のアスレチックで楽しく遊ぶことができます。

ここでは、環境省レッドリスト・絶滅危惧IB類(EN) のホトケドジョウをはじめ、きれいな水にしか生息しないサワガニやヨシノボリ・ヌマエビ・昆虫の幼虫などたくさんのいきものを観察することができます。

### 自然体験教室の開催

公園内を流れ浜名湖にそそぐ今川のきれいな水やホタルの住む豊かな自然の中で、いきもの観察をしたり、自然を守る活動を楽しく学ぶ「今川こども自然クラブ」を毎年開催しています。

対象は小学生で毎月1回ずつ10回のコースで、棚田での田植えから稲刈り、収穫したお米を味わう会などもあります。

今年の9月22日にはメンバーが子どもたちに、カマの使い方から稲の束ね方や干し方を指導しながら5月に田植えをした稲の稲刈りを行いました。



稲刈りのカマの使い方指導

### 青少年指導者の育成

中学生対象に7月から8回の研修を行い、静岡県教育委員会認定の「静岡県青少年指導者」の育成をしています。

地域の自然を学ぶ活動として、里山の営みの体験やクラフト、生物調査を体験したり、身近な環境を活かした活動としてのプログラムの作り方を学び実践したりする研修会を実施しています。

参加者には、小さな頃から地元の自然に親しみ、守っていく大切さを学んだ今川こども自然クラブのOB・OGがたくさんいます。



昼食づくりをする中学生

### 環境省レッドリスト・絶滅危惧IB類(EN) のホトケドジョウ



ホトケドジョウ

ホトケドジョウは青森県を除く東北地方から南の本州に分布し、太平洋側では三重県まで、日本海側では京都府と兵庫県の一部まで分布しています。

近年は家庭の生活雑排水の増加などによる水質の悪化と、近年の河川・水路のコンクリート化などにより生息数は激減。水田などで使われる農薬なども、ホトケドジョウの生息環境に深刻な影響を与えていると考えられています。

#### 【連絡先】

E-mail : [kosaifront@yahoo.co.jp](mailto:kosaifront@yahoo.co.jp) ☎090-1291-3210 鈴木さん  
ホームページアドレス [http://www.kosai.org/?page\\_id=44](http://www.kosai.org/?page_id=44)

## 活動団体紹介2

## 昆虫食倶楽部

昆虫食倶楽部は、「とって食べる」活動を通して、「食べる」という日常を一度見直し、身近な自然や食について考えるきっかけとなることを目的として①身近な自然を楽しむ、味わう ②身近な自然に対する知識、理解を深め、環境の保全に貢献するという2つをテーマに活動している団体です。

### 浜名湖の多種多様ないきものを食べる

浜名湖に生息する魚介類は多種多様ですが、その中で私たちが日常的に食べているものはごく一部です。「食べられない、おいしくないから食べていいのではなく、食べる習慣がないから食べないだけ、という実はおいしい生き物がたくさんいるはず」昆虫食倶楽部は、そんな生き物を発掘して、とって食べる活動をしています。

平成30年2月には「内山海岸で浜名湖の生き物をひろって食べる」を開催し、ユムシやシロボヤ（殻を切り開き、オレンジの部分を取り出す）、海藻類（種類ごとに仕分け、サッとお湯にくぐらせる）、ツメタガイ（お湯でゆでて中身を取り出す）等の、一般的には食べられていない生き物をとって食べました。



ユムシ

内山海岸（浜松市西区）

### 「とって食べる」イベント

身近な自然の中にいる生き物を参加者みずからの手でつかまえ、みんなで料理し、おいしくいただくイベントです。“外来種をとって食べる”では、佐鳴湖周辺に生息するウシガエル（特定外来種）やアメリカザリガニを捕まえ、安全に調理していただきました。“野草をとって食べる”では、身近にある野草をとって、料理して、食べました。

### 外来生物対策事業

佐鳴湖でのミシシippアカミミガメ（緊急対策外来種）の捕獲調査を中心に、外来生物の駆除と、外来生物問題や生物多様性に関する啓発活動をしています。

カメの捕獲は行政と連携をとりながら行い、一般の方のお手伝いをネットで募集し、関心を促すこともしています。

前日に罠を仕掛けて翌日に引き上げ、捕獲されたカメの性別・体長・その他を記録しています。



カメの捕獲用ワナ



ミシシippアカミミガメ

### 緊急対策外来種：ミシシippアカミミガメ

原産国はアメリカ合衆国南部（ミシシipp川水系など）ですが、ペットとして世界各国に輸出され、現在では様々な国や地域に定着しています。日本への輸入は1950年代に始まり、野外では1960年代後半からみつかるとなりました。愛玩用に輸入されたものが遺棄され生態系への影響が懸念されています。

#### 【連絡先】

E-mail : [furaha.natsume@gmail.com](mailto:furaha.natsume@gmail.com) 夏目さん（代表）  
ホームページアドレス <http://torutabe.hamazo.tv/>



## 活動団体紹介3

## 日本野鳥の会 遠江

日本野鳥の会遠江は、公益財団法人日本野鳥の会の全国約90支部の一つです。“自然にあるがままの野鳥に接して楽しみつつ、野鳥に関する科学的知識・適正な保護思想ならびに自然尊重の精神を養い、これを普及することによって人間性豊かな社会の発展に資すると共に、会員相互の親睦を図る”ことを目標として活動している団体です。

### 調査・保護活動

環境省が全国で行う「ガン・カモ類渡来調査」に協力して、毎年1月に静岡県西部地方の40ヶ所以上でカウント調査を行っています。最近では暖冬の影響で減少傾向にありますが、浜名湖を初めとする開水面の多い西部地方には県内の大半が生息していることが明らかになっています。

独自で「野鳥モニタリング調査」を行っています。継続されたデータの中から環境の変化が分かってくるため、地道に調査を続けています。

トンボの宝庫として知られ、冬には数千羽のカモが飛来し野鳥の生息地としてもすぐれた環境を有する磐田市桶ヶ谷沼では、施設の整備にあたり、主に「野鳥」の側面からの環境保全への提言を行いました。

### 探鳥部会活動

毎月2～4回の探鳥会を開催しています。遠江(支部)内の定例探鳥会・宿泊探鳥会・山岳探鳥会等、会員のニーズに合わせた探鳥会も開催しています。探鳥会を希望する地域などあれば事務局にご連絡ください。

小学校の環境教育支援や地域活動への協力もしています。浜名湖ガーデンパークの探鳥会では、気軽に参加してもらうため、双眼鏡や図鑑の貸出しもしています。

今年の9月1日にJRと天竜浜名湖鉄道が共催したさわやかウォークでは、猪鼻湖を巡るコース途中の礫島付近にバードウォッチングポイントを設置し、サギのコロニーやアオバトの観察を体験してもらい、多くの来訪者に浜名湖の豊かな生態系を紹介することができました。



スコープを設置しての野鳥観察

### 野鳥写真展等の開催

会員が撮影した野鳥の写真の展示を各地で行っています。平成30年11月1日～25日の期間に、浜名湖ガーデンパークかえで橋回廊ギャラリーで約80点の展示を行います。ホームページでも野鳥の写真を多数紹介していますので、ご覧ください。

今年の5月には「バードウォッチングガイドⅡ 静岡県西部の野鳥」を出版しました。定例地の探鳥会やイベント、写真展会場で販売していますので、ぜひ、ご購入ください。



### 浜名湖で観察できる希少なアオバト

アオバトは山に生息する鳥で、夏場に浜名湖で塩分を含んだ水を飲む珍しい野鳥です。浜名湖は全国に5～6カ所しかないアオバトの飛来地です。

#### 【連絡先】

E-mail: ymasudayu@yahoo.co.jp 増田さん(代表)  
ホームページアドレス <http://www.wbsitm.com/>



アオバト

## 活動団体紹介4

## NPO法人むらちゃネット

NPO法人むらちゃネットは、平成16年に開催された「しずおか国際園芸博覧会」の会場地に新たに開園した「浜名湖ガーデンパーク」等を活用し、より多くの県民に潤いの空間と学習の場を提供するとともに「地域の活性化」「健康な町づくり」及び「地域の自然環境の保全」を推進し、「安心して心豊かに暮らしていくことのできる地域社会の構築」に寄与することを目的として活動している団体です。

### ふじのくに美しく品格のある邑

持続可能な地域づくりを通じて、農山村がもつ地域資源「地域の宝」を大切に思い、守り、活用し、次世代に継承する活動を行う、理想の農山漁村に選定されています。

浜名湖ガーデンパーク近くの耕作放棄地にコスモスやヒマワリの種をまいて、浜名湖を訪れる方々にきれいな浜名湖の風景を楽しんでもらうための花畑づくりをしています。

耕作放棄地を活用して玉ねぎ等の野菜栽培にも取り組んでいます。



ヒマワリ畑

### お米の栽培

コメ作りでは、地元の小学生や浜松市内の高校生が、水田での作業を体験し、秋には収穫したお米を味わう収穫祭を開催しています。



アマモを活用した畑づくり

### アマモを活用した野菜栽培活動の協力

村籾の耕作放棄地を活用した畑では、はまなこ環境ネットワークが取り組むアマモを活用した野菜栽培の畑づくりや栽培の指導・管理に協力しています。

夏に浜名湖湖岸に打ち上げられて腐って悪臭を放ち“困りもの”になっているアマモ・アオサを回収し、1ヶ月程度雨にさらしたものを畑にすき込んで堆肥として活用し、大根を育てています。

回収や畑づくり・種まきから収穫まで、環境に関心のある子どもから大人までの様々な年齢層が参加し、浜名湖の環境や恵みを体験する機会になっています。



毎年大豊作の大根

### 昔はアマモは貴重な浜名湖の恵みだった



アマモ(海に生える草:海草)

現代では、化学肥料の導入で手間のかかるアマモは放置され、腐って悪臭を放つ「困りもの」となっていますが、江戸期から昭和30年代までは、浜名湖周辺の農家は湖岸に漂着したアマモを堆肥として活用し、「庄内白菜」等の栽培が盛んに行われていました。

浜名湖では藻草は「モク」と呼ばれ、商品価値も高く、「浜名湖の宝」と称されるほど貴重で、湖畔の村々は競って藻草採りを行い、藻草をめぐる争いは絶えることなく起きていたそうです。

#### 【連絡先】

E-mail: muracha@bz03.plala.or.jp ☎053-488-0800  
ホームページアドレス <http://muracya.net/>